

銀漢亭日録



伊藤伊那男

時半閉める。

9日(火) ▼村田脩先生の一周忌命日。「銀漢」10月号の選句。「火の会」鮎山椒煮、冬瓜汁など。武井まゆみ、多田悦子さん来て、てる緒さんと9月の「上野吟行会」打合わせ。

10日(水) ▼伊那北高校同期で会長の存在の守屋林司君(日経新聞常務)が昨夜22時逝去と。2年程前すい臓癌を発症し療養中であつた。信望の厚い人であつた。ああ！ 12時半店。発行所は「梶の葉句会」。選句に上る。明日から夏期休暇にて、オイルトラップ、クローラーの網など清掃。そこそこ賑やか。

11日(木) ▼18時より上野寛永寺輪王殿にて守屋林司君の通夜。日本経済新聞社と守屋家の合同葬儀。終つてから遺族の許可を得て伊那北高校同期生十数名で棺を囲み校歌斉唱して送る。泣けて泣けて。追悼の秋蟬ならむ夜も鳴く。公園下の居酒屋にて思い出話など。

14日(日) ▼15時、浜松町駅。「十六夜句会」吟行会に呼ばれる。日の出埠頭から水上バスに乗り浅草へ。浅草寺の施餓鬼棚など見て「ユイ浅草」の3階で句会。5句。あと「盆の月」で1句。ラーメン屋「あづま」に寄つておひらき。

17日(水) ▼10月号選句一切を武田編集長に渡す。店開くが閑散。22時過ぎ閉める。

18日(木) ▼今年一番気温の高い朝。暑さと蚊の襲来で5時に起きてしまふ。10月号用添削教室書く。天為若手同人矢野玲奈さん誕生会10人程。「銀漢句会」三代川次郎さんが元氣な顔を見せてくれる。あと17人親睦会。賑やか。閉店後誕生会グループに呼ばれて洋酒バーで10人程(主人公玲奈はいない)。2時近くに退散。

19日(金) ▼雨。少し涼しくなるか。桃子より電話あり、沖縄の生活にすっかり馴染んで東京に戻りたくなつた。子供達は日焼してチヨコレートのようだと。発行所は「野村句会」。選評に上る。あと親睦会6人。

27日(土)

▼14時、日本橋「鮎の手志喜」にて「纏句会」15人のフルメンパー。秋刀魚塩焼、衣被、銀杏焼、ばい貝、題の穴子をまじえたにぎり寿司。竹脇無我氏逝去の報。思い出すのはバブル期、夏に家族でハワイに遊びに行くとなまた来ていた某金融機関の理事長に誘われてカハラの別荘を訪問。そこに竹脇氏が十朱さんとの恋愛エピソードで逃げて来ている。一緒に遊ぶ。代官山の「小川軒」のシシモ呼んで来ており、フラダンスチームを呼んでのガーデンパーティー。ああ、そういうバブリーな時代もあった。給湯器が故障。昨日から水のシャワー。

28日(日) ▼12時より、高幡不動にて皆川盤水先生の一周忌法要(命日は29日)。皆川家御親族に加え「春耕」一門20名程。寺にて直会。あと参道のそば屋で二次会。大阪から朝妻力さんも来ていたので、良雨、柚口、洋酔さん他8人程で新宿の居酒屋。力さん帰ったあと更に4人でワインバー。でも22時半には帰宅して健全。朝妻さんからお盆の妻への供物として千疋屋の果物いただく。

29日(月)

▼給湯器の修理人が来て湯を出してみると何と！ 出る。湿気でヒューズがおかしくなる時があるのだと。ただ弱つてはきているようだ。「湯島句会」出句97人。岸本尚毅、權未知子さん久々。終つて權、小石、敦子さんと洋酒バー。皆で權さんから恋愛指導を受ける。

30日(火)

▼企画部会6人。新年大会のことなど。柚口満さんと「俳句研究」石井編集長、吉田さん。柚口さんの第二句集「淡海」出版の慰労会。それを朝妻力さんに伝えたら酒の差入れあり。大型台風が近づいている。

31日(水)

▼「春耕」同人欄の校正。「俳句年鑑」40代作家展望の依頼あり。今年は来ないと安心していたのだが……うむ。この欄は時間を取られるのだ。清人さんが「鮎を食べる会」15人。「平、真砂さんら」読む会」ほか盛況。

8月4日(木)

▼午前中、礼状・返信校正、句評その他雑用。郷里駒ヶ根市の文芸セミナー会より10月に井上井月についての講演とシンポジウムの依頼を受ける。店、天為の有史、洋さんなど。芥ゆかりさんから「銀漢」購読会員の申し込みたいだ。

5日(金)

▼「春耕」45周年記念賞応募句の選句始める。20句で応募、104通あり。柚口満さんの句集「淡海」第一校、校正。娘の杏、桃子より沖縄台風接近で「凄い！」と電話で風雨の音を聞かせてくれる。発行所は9月号校正。N.Y.の月野ぼほさん来店として結局20名程が集まり歓迎会となる。人気者め！床屋、買い物など。午後、ふと思いつき映画「大鹿村騒動記」を見る。大鹿歌舞伎は郷里伊那谷の行事。5、6度行つたことがあり懐かしく見る。「ライオン」でビール。

7日(日)

▼暑い！ 14時、神楽坂、毘沙門天前に集合。「俳壇」の企画。新主宰による「白熱句会」井上弘美「汀」、木暮陶句郎「ひろそ火」、小山徳夫「爽樹」、檜山哲彦「りの」、藤田直子「秋麗」、水内慶太「月の匣」、ゲストに女優の富士真奈美。数日前に秋の句7句提出済。30分程、界限を吟行し、雑詠3句、計10句出しの句会。会場は山田洋次などが缶詰になる宿「和可楽」。句会開始と共に大雷雨となる。言訳になるが事前投句締切直前に「秋季」の句であることに気付き作り直したことなどあり成績は不調。とはほ。終つて弁当とビール。ワインで歓談。あと慶太、直子、哲彦、弘美、陶句郎さんで居酒屋で飲直し。11月にこのメンバーで句会を開く約束。

8日(月)

▼相変わらず暑き日続く。「春耕」創刊45周年応募作品の選。104編から10編を選ぶ。発行所校正作業。店閑散。22

20日(土)

▼10時より発行所にて運営委員会。早めに終つたので「上海飯店」でランチ。松山、秋葉男、いづみ、花果。13時よりひまわり会館にて「本部句会」。41人。あと「和民」にて親睦会。20人程。

21日(日)

▼冷たい雨の一日。星雲集、同人集選評。「銀漢」の俳句など執筆。夕方から一駅隣の高井戸温泉「美しの湯」につくろ。

22日(月)

▼今日も雨催。午後店に群馬県の鈴木守氏見えて「銀漢俳句会」に入会。発行所は逍遊一派来て湯島句会報製本。店閑散。

23日(火)

▼雨後、暑さぶり返す。「銀漢」10月号用原稿全て終了。「春耕」創刊45周年募集作品。杉阪大和氏受賞。唐沢静男氏佳作。多田美記、萩原一夫氏入選……という結果。選評書く。午後ひまわり会館にて「秋句会」。選句に行く。発行所では9月号の発送作業。19時から有史さん、洋さんの「句会」。終つて有史、対馬、静子さんと洋酒バーへ。

24日(水)

▼「俳句」10月号の特集「実りの秋の『おいしい俳句』」の原稿送る。発行所「？」句会。敦子、尚毅、肖子さんなど。終つて5人店へ。

25日(木)

▼雨続く。句集の礼状、通信など。「文藝春秋」の別冊。吉村昭全部読み終える。山形の菅原庄山子さんよりだだ茶豆沢山届く。郵便局、銀行と雑用多し。店、8月は駄目だな……。帰路、「ヴィンテック」。ローストビーフとういのパスタでワイン。

26日(金)

▼手がすいたので、井上井月のこと調べ始める。井月の年譜と日本、世界の政治経済環境と照らし合わせる作業。出勤時、物凄い夕立。傘無く、神保町駅に立往生。武田編集長もいて期せずして40分程立つたまま編集の打合わせ。発行所は「金星句会」。店は麒麟、優夢さんなど若手俳人12人がなだれ込む。